又 おぞふやす おやれも
てだりすへ座れも
又 きまりまりちよちよへ
まてまりまりちよちよへ
一 (四六)
きまちよとこのあまりろ
くちまさしやあまのち天
のあさやめちよされ

又 きまぢつきさやせらむ
又 あちおゑいさやおりい
くもにれのあぢさやゑとる
一 (四七)
あんのあつこ袮ま
くちまさしやあお
てだ座れそもひや
くさすちよされ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

（四八）
一又あんのまもこゝ祢ま
あんのあかこゝ祢ま
くらまさしやあね
もしちやゝふおす
せちもりたこゝ

（四九）
一又あんのまもこゝ祢ま
せちこゝふちへかくゝは

こうこゝこうくふて
てたうこのちかみの
いのちゝおやせ

（五〇）
一又おもひふちゑゝさ
くふこのこゝや
おもろゝこそてそゝく
おかざこそゑからさふてよ

けすふとよまれしく
又 かなふしくふかこかせるむ
一（五二）ちんの かなふしくふかこかせるむ
まかるくふかこきや
天かまてく島やまちよ
そこみきよれ
又 きよらまよりちよる

又 おきやかもいかなし
みちゑおされそこさや
一（五三）あんそう ゆちへおされそこさや
満こちけかおもろ
すへのくちまさしや
たもしすゑとひや
くさすちよるめ

又 けよの よかるひよ
又 けおの きやかるひに
又 大きみき たゝへて
又 くふそりそ たゝゝて
又 首里もりちよわる
世添もり乃 おきやかの
(五三) ちやへかふし
一 ゑそこけこの おもろ
くちゑさしや あお
ゑぞうやすへ おれい
くきすらよされ
又 けおの よかるひに
又 けおの きやかるひに
又 きうちまりくすく
ゑさ まそりくすく

又 もゝうらおそいちよわちへ
又 すゑのあじやんちよわちへ
一 あくどちきよらけ
よそのおもてさい
いこきもりちよい
ちよおまやおもろ
又 あおちきよきふまらみ

一 あおちきよゝてるも
からそれてしま
ひろくふひろくちよきし
一 みおちきてみちまさら
あおちとりけや
あんのおもいけや
すりてれあおりいちゑのてく

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

又 あんしとすゝか
げすらしとすゝる
（五七）くすくぬちやよりのなやこらあま
一 はるこふくけしや
よるるふくけしや
たまはむきゆん
うらうらやら
又 おいんふそゑく

又 ひとのおやふさへく
けさよりやゆらゝを
むかうをやまさうり
（五四）あよたこぞやうのやう
一 はるこふくけしや
よるるふくけしや
こやうぬちまうやはし
又 あや風まうもりや

又
くも座偽りもちもや
ちむむれあるとと
もしとあれあると
又
くめそいみへ座り
けらま偽いこゑそ
一
きこゑあしけう
ちてもりおれらへ

こさこ流かふおきや
うりいふころおやせ
又
きここのふせてみのこう
偽てまことりおれちへ
又
さしふ川こころよ
又
おれあおちへしてと
又
さしふあ川こころふ

一 おれふさて かくらく
おきやか風ともいや
おきやか志ひりぎや
みすゝおそい世そ
もとてちよわれ
又 志てなまもりちよわる
おきやかもりあかし

一 おぎやか風ともいや
おきやかの志ひりぎや
てるのてるぎやめ
ちよわれ
又 志てまもりちよわる
おきやかもりあかし
一 おきやか風ざもい風

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

あちへせのこのみ
こもんさやふ かり ゝ
一又 きものそこみ
おきやうきひりきや
おぎやか匂とよいや
おぎやきひりきや
あちてゝおやまて匂い

あちへせのこのゝ
又 そすゝへするる

一 ……きれしあくそ
あつそり やりきれ
一 おこやか匂さよいや
おこやうきひりきや
とふれ おこも匂すて

あちせのこのこ
こもんこやふ
又 ちものこみ
おぎやうちひ川ごや
一 おぎやか屋とりいや
おぎやちひ川ごや
あちてこおやまて屋ろい

又 こやうすゝへするふ
くこすゝへするふ
又 ちてれまし あこも
あつもりやりちてれ
一 おこやか屋ともいや
おこやかちひ川ごや
とよみれおこも屋すて

又 しよりもり ちよわる
おぎやかもいがなし
又 ぢよかぢやなのおそて
一 ちよかちかしきよや
おぎやか角ぞすいや
しよりおやくふ
おてかきもし

すゑ あまゑよすゑあ
又 おぎやかしひりぎやか
一 こか おやくふおてかは
おきやか角さすいや
おぎやかしひりぎやか
こてあちめここあくもてる
又 しよりもり ちよわる

一 おもろやりいうゑし
おもろやかゑさもいや
おもろやかきひ川がや
もりしすゑこれぞ
いらへそよま
又 きよりおもろてここ
くすしおもろてここ

一 きここへあちおそいこの
おもりくふちよもちへ
きま世のあしへがやめ
ちよそれ
又 ちもあちおそいか
うふ乃しめちよもちへ
又 きここへあぢおそいこの

しまりまりちみとちへ
てるかそこがて　よるゝ
又 屋ふちおられ
そうむあちおそいか
又 海さまりちよとちへ
きこゑ大きゝぎや
又 うらおそてみめさてゝ

ちへしまよのあらぎやて
又 そうむせたかこか
こうこゝおしよか　よるちへ
又 きこゑ大きゝぎや
うらまちりめ　よるちへ
（えん）あわりやぎて
しまよのあらぎやて
一 おぎやかもいおこのゝ

三十七

ぢそろれてそろつて
あま為のち風ぞゑ
けらつてゝもりすへ
うやめとおうやりい
ちつゝす

あまゑのち風しれ

ゑまよあわしゑ
あまゑのち風ぞゑ
けらへてゝもりす

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

ぢそられそそろつて
あま気のち風ふくそ
けらつてそれすへ
さやうそおさやりい
ちゝすゑまさてちされ
ヌ あらおそいゝおこれゝ
ヌ 大きうそそたゝべて

みとみ風まこ在気老
あみけ系あ見て風ありて
けみおかでうやもいほまりて
ヌ すゑゑれあ見てうやれそ

一 おぎやうすいござや
おこれゝのあさまれ
おぎやうもいかこて

ぢよわれてそろつて
あまゑのち風ゝて
けらつてもりすへ
こやめもおもやり
あゝすゑはきてちよわれ
又 あらおもいあこれ
みたきゝそたく

又 とよまきゝたつて
又 けさよまゝまさり
又 むつらまむまさり
又 すゑれまうやれそ
一 おもろやあもいごや
おこれゝのあゝまれ
おさやのもいかこて

すゑまうてゆき
又 さうゑちようれ
又 あぢおそいぎや
おこれゝのゑこまり
又 あまみきよゝしま
そゝくつよゝちへ
又 しねりきよゝくふ

そゝくよゝちへ
又 おぎやうすいゝしまゑ
又 けやうしよゝちへ
又 あぢとゝいゝくふそ
けやうしよゝちゑ
又 かゝしむそゝろわて
又 ぢそられしゝそろて

（七二）

又 みてだと まぶりよわちへ

一 おぎやかもいや

とこゑゝ 大ころちへ

けらへて まりまり

うゑおそら おか み

てゞのそろ て

かこつまより ち

ゑ

又 あちおそいの おこれゝ

又 けおの よかる ひに

又 けおの きやかる ひに

又 大ころゝ ゑ そろて

又 こゝゝ ゑ たゝて

又 そり ひろく ちよけて

（七三）

一 おぎやかもいが おこれゝ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

しんゝくしけゝていのり
よれてだゝかこりよもちし
又 あちおそいゝおこのみ
又 大きみゝかへて
きやてゝきけらつて
又 きこしきみゝづて
又 かこむきみゝつて

又 ちぎそふれそそろつて
又 きやてゝれすでゝり
おきやもいふきおやせ
もりすしもひやくさすちよされ
（七三）あかりなへ（かり）
一 おきやりいゝおこれゝ
まりふゝそうし
さちしもしすし

ミやめとりミ　さつもの
ミりんするミてうや
ヌ　あちおさいおこれミ
ヌ　大ミミく為り　て
ヌ　きりしさ為り座て
ヌ　けおのよるひふ
ヌ　けおのミやるひふ

ヌ　すゑのまつやれく
一　まかるこおりろするゑ
乃おとのちようちゑ
流ふふこさつやくぬき
あけそすゑまさて
もひやくさすろきれ
ヌ　大ミミこやりちあ

又 すゑのおどのちよきちゑ
又 ミミのあちれもちへし
又 すゑのおどのちよきちへ
又 おミやかりいへしぎや
又 すゑのおどのちよきちへ
又 こゝへあちおそいぎや
又 けおのよるひふ

又 けおのきやらひふ
一 あもりいぎやおりろ
おぎやうりいふちへれ
ちまきてもりし
又 すゑちよられ
又 あもりいぎやせらむ
又 おきやかりいおこれミ

又 うゑさちやる、ゑるまり
又 あちおそいかとこれゝ
又 うゑさちやる、ゑるまり
又 大こゝも気かへて
又 きこゑしも気か盛て
又 もし、ゑらびやり
又 清き、ゑらびやり

一又 天こるやまてこそてまて
おこるやうりしかおこれゝ
けゝへたる、なくゝ
もしくゝひきてみせておやせ
又 あちおそいかおこれゝ
又 けおのよるひふ
又 けおのころやるひふ

又大きうこそなつて
又きうしこそなつて
又きこへおやこそましまさ
又そてむおやこそまします
又もりすゑごやめさ
一おきやりいおこれ
すゑのおくもこゑて

くみしものたうう
はでござおやせ
又あちおゑいおこれさ
すゑのゆくもとゑて
又大きうこそなつて
ムしふこそげして
又きうこしくたつて

又　けおのまろひふ

又　けおのえやうるひふ

又　けさまりもまさり

一　君ぞゆやのうらや

あまくや風しく

又　わこりや風しく

又　てざらうら風きそ

一　いらやくふかおもろ

あちくめかせるむ

もりしとりしうら

又　おそいらくまされ

あまのうすし　やふ付

さこふてりちまされ

但一てんうす七十九

首里大君せんきみ君〻のし
こゝとふミあかりきミ乃
徳んし乃おもろおさうし
天啓三年癸亥三月七日
第六

一 きこゑ大きみや
ちよむくふおそいか
くふふさてちよられ
又 けおのうらにまとる
又 あちかうちましとる
又 おさいきよすいあちおそい
又 おろふきますたゝぬよ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

又 あまこあらちへふりて

又 こゝゆらりあらちへかくさ

又 あけましもふるそ

又 むかうもしふるそ

又 きこえて川りふこり

又 かこ浪かいこ乃め

又 けおさまふするおれや

又 ゑらゑらひのゆらおれや

又 よりこちへさむよりり

又 せちよせらさむさ

又 おれらかすす清ふる

又 あすぞかすかいゑる

一 志てよ雲大きこえや

すへゑらひやりおれらへ

きこゑや　せぢまちよる
又　ふちへこお　やせ
又　さしくゝふとみさや
　　ませみてひやおれちへ
又　きつりとまちよる
又　ゑそふやすへあちおそい
又　まさ海ゑとるまちよる

てこのすへあちおそい
又　こりんちのまさやに
又　くふありそあふちへ
力　かるるめのこうちに
　　きつこちてあいあふちへ
又　きこへ大きこ　ちよ
又　ゑりちよ　やり　かとちへ
三　力